



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行人 竹山 昭 1部60円年間共1100円

教会のこよみ

Table with 7 columns for dates (7日, 14日, 19日, 21日, 25日, 28日) and corresponding church events like '四旬節第二主日' and '聖ヨハネ'.

教区報は教区民の交流の場

創刊から四十二年、四五十号を発行し

課題を確認し内容の充実を

創刊から四十二年、今号が鹿兒島カトリック教区報の四五十号となった。編集部ではこれを機に教区報の使命を再確認するとともに、これまで不十分だった点を反省し、それらを今後の課題として、教区報が教区民の交流の場となるよう努力する決意を固めた。

一九六一(昭和三七)年六月に創刊号を発行してから四十二年を経て、今号で四百五十号を迎えた。

の使命についてまず、こう述べている。

一口に四百五十号と言っても最初の数年こそふた月分の合併号が時折みられるものの、四十七号(一九六八年五月)以来は年に十一回、二〇〇〇年(平成十二年)からは毎月発行し続けてきた積み重ねである。

「教区報が教会、各教区及び各司教区内の主な出来事を報道するものであることは、その名称と内容が示す通りである。しかし、教会は神の秘義の具体化であり、生きた福音である。それで教区報が教会内の出来事を報道すると云っても、それは教会の本来の職に関する出来事である限りである。」(まま)

この四十二年間を振り返れば、ある時期からは、鹿兒島の教区報は、その使命に忠実であったと言える。それほど読者の助けになったのかは、読者各自の判断に委ねるしかないが、創刊号から現在までの綴じ込みを読み返すかぎり、それぞれの時期のやり方は異なっても、編集方針にそれがくつきりと表れている。

むしろ、ここ数年の間に教区報編集部が寄せられた僅かな読者の反応から推し測っても、司祭たちの批評からも、また編集部自身の反省でも、いまひとつ十分と思われたいことは別にある。各小教区、団体のニュース、信仰と社会の趨勢の狭間で生きる信徒の方々の生の問題を分かち合う場としての紙面づくりに工夫の余地があると云えよう。様々な工夫を凝らしてみたいといえ、やはり今後の課題と思われる。

鹿兒島教区は、信者総数が一万人を切る、決して大きな教区ではない。しかし、主たるものでも徳之島、

教皇ヨハネ・パウロ二世は一九八五年三月三十一日(受難の主日)、国連制定の国際青年年にあたって全世界の青年たちにメッセージを発表し、その翌年から「世界青年の日」を毎年、受難の主日(枝の主日)に祝うよう定められた。それとともに一九

世界青年の日

八七年以来、「国際青年フォーラム」と「世界青年の日」記念式典が教皇臨席のもとに開催され、全世界から大勢の若者が集まるようになりました。初回は一九八七年ブエノスアイレスで開かれ、来年はドイツのケルンで開催される予定。

等々、日頃いつも遭遇している事柄を簡単な実践をまじえて学んだ。信徒の方々との接し、病人を訪ねる司牧の中で、多くの示唆を得た様子である。最終日のコンベンツスでは、毎年この場で発表されている「教区年間行事予定」の発表と説明が行われた。今年から、教区が鹿兒島知牧区として長崎教区から独立した「教区創立記念日」(三月十八日)、司教区となった「司教区昇格記念日」(二月二十五日)が明記されたこと、九月十五日のカテドラル献堂記念日を「教区の日」と名付けたこと等、新しい要素も加わった(四面に予定表掲載)。

本部の使命を確認

新教区本部棟の完成からほぼ三か月になる。通常の仕事や会合などはどうやら落ち着いてきたものの、全体的・総合的な運用の計画は十分とは言えない。そこで、二月三日、司教の司会で教区本部担当の司祭たちに信徒職員も加わり、教区本部に求められるものについての対応したらいかに話し合った。

奮美大島、種子島という離島を抱えており、そこに教区民の約半数が暮らす教区である。きめ細な取材も困難ではあるが、四百キロの距離を越えて教区民の交わりの手段が不可欠なことも確かである。現在、その主要な手段が教区報であるとすれば、困難でも、互いの交流の場になる工夫が求められるのは当然である。そのためにも、教区民の協力が欠かせない。

また、来年は、司教区になって五十年を迎えることになる。なお、このおりに「十字架の使徒会」の今後についても話し合った。よく知らない人もいること、会報の発行の必要、担当者、会員資格の拡大如何の問題など、種々検討することはあるが、今後大切な運動として存続することで一致した。

教区本部は教区共同体の交わりと使命に奉仕するために存在する。教区の使命は宣教司牧にある以上、教区本部はその使命に全面的に奉仕することになる。その点は明らかでも、現在のスタッフは限られ、するべきことは多岐にわたる。教区の司祭たちや若干名の信徒の方からは、信徒台帳のデータベース化をはじめ、資料センター的な役割、また霊的なニーズへのサービス、ホームページや情報発信等々、様々な要望が出されている。

信徒の霊性を学ぶ

今年の司祭大会

去る一月二十六(二十一日、鴨池のかごしま第一ホテルを会場に、教区の司祭団が司祭大会を行った。参加者は糸水司教ほか司祭たち三十三人。

この大会は、二十数年前からほぼ毎年続けられており、常日ごろ各地で別れて働く司祭たちが、研修に励み、共同生活を行って、司祭団の交わりと一致を生きる機会となっている。準備と実施責任も、各地区司祭団で持ち回りが慣わし。

今年度の研修は、パストラル・ケアの臨床経験が豊富なキツベス師の指導で、「信徒の霊性」を主題に最初の二日間実施した。最終日は全司祭集会(コンベンツス)で締めくくった。

研修は、「信徒の霊性」を育てるために知っておかなければならない事柄を、主として、スピリチュア

教区人事

道向 進神父(コンベンツアル会)

病氣静養を終えて二月八日付で、名瀬・古田町教会主任司祭。これに伴い中野裕明神父(聖心教会主任

司祭の古田町教会主任代行の任は解消。

教区広報部長、及び十字架の使徒会指導司祭 末吉卓也神父(ザビエル教会助任司祭のまま)

鹿兒島カトリック女性信

徒の会顧問司祭 小隈憲士神父(始良教会主任司祭、教区会計部長のまま)

教区終身助祭養成委員会 竹山昭、郡山健次郎、泉浩二、末吉卓也の各神父



# 十字架の使徒会をご存知ですか？ 病と老苦を通しての宣教25年

読者の方々は、「十字架の使徒会」をご存知だろうか。教区報二面の下欄に毎号独自の祈りの意向が載せられているので、名前はご存知だと思っ、それがどのような会か、何を目的としているのかを知る人はあるいは多くないのかもしれない。

そう思うのは、去る一月末の司祭大会中に「十字架の使徒会」の今後について話し合ったおりに、幾人かの司祭たちから「そのような会であったとはよく知らなかった」「現状を教えてください」などの声が上がったからだ。

病人も宣教師  
二十五年前、当時、鹿屋教会で司牧していたマゾッキ師(聖ザベリオ宣教会)が始めた。

小教区内に敬愛園を抱えていたこともあって、慢性疾患や長期療養、あるいは寝たきりのお年寄りも宣教師する鹿屋教区に活動に参加する道を開いた。むろん、実際の活動を通してはできない。しかし、まさにその中で生きざるを得ない自分の病氣や不自由な状態、苦しみをイエスの十字架の奉獻に合わせてささげ、教区の意向に合わせて祈ることを通して宣教する教区の一員として生きることはできる。

病苦の中の連帯  
早速敬愛園の田上稔氏をはじめ協力者をえて準備にかかり、司教の認可を得て一九七九年九月十四日、十字架奉獻の祝日に「十字架の使徒会」が発足した。

会にはいくつ特徴がある

主なもの挙げれば  
一つは、病人一般ではなく、長期にわたる慢性の疾患や寝たきりのお年寄りなど、ある程度長い期間病や衰えの中にある人々が教区の活動とつながるための会である。むろん、その人々のお世話や介護をする人を含む。

また、病苦を漫然とささげるといってではなく、鹿屋教区に福音宣教に加わる明確な目的を持つ。そのために司教から毎月具体的な意向を示してもらい、教区報掲載の意向。

## 十字架の使徒会(規約)

一、十字架の使徒会は、十字架の使徒会にこそ人間の救いがあります。

「神は、御心のままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせ、その十字架の血によって平和を打ち立て、天にあるものであれ、地にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました」(コロサイ一・19-20)と聖パウロが教えるように、すべての人は、イエス・キリストによってのみ救われます。

罪と死に打ち勝ち、人類を神と和解させられたキリストを信じる者は、みずからの苦しみを通してキリストと共に十字架を担い、神のみ業の協力者となり、すべての人々に、キリストのこの救いの普遍性(福音)を告げ知らせます。

口・十字架は、復活への希望

て連帯するが、また苦悩における連帯もありうる」と言った人がいる。「十字架の使徒会」は、まさに、常の仕方では孤立しがちな病苦、不自由な状態の中での連帯を二重の意味で実現する会であろう。

世の救いのための十字架のイエスの奉獻と、また苦悩の中に兄弟姉妹達と、そして教区の福音宣教の使命を生きて仲間たちとの連帯である。

今後若し変更される可能性があるが、現行の「十字架の使徒会」規約を紹介しておく。

二、本会員になれるのは、原則として鹿屋教区内に住んでいる次のような人々です。

イ・キリスト者およびその求道者で、慢性疾患のため闘病生活を送っている人(在宅の高齢者および寝たきりを含む)や身体に障害のある人

口・これらの病人や障害者を看護しているキリスト者およびその求道者

三、本会の活動は次のようなものです。

イ・会員は毎日十字架の前で「会の祈り」を唱えます。尚、この「会の祈り」にはその月の司教の意向を加えます。それは、十字架の使徒会の活動が教区の宣教活動と一体だからです。

ロ・会員は毎日の黙想のひとときを大事にします。黙想としては聖書を読み、みことばを心の糧とします。読むこと、困難な会員は他の方法をもってそれにあてます。

ホ・会員は各自がおかれた状況の下で、可能な限り宣教するように努めます。

四、本会は、カトリック鹿屋教区本部内(鹿屋市照国町一三四二)にその事務局をおきます。

五、本会には、司教から任命された指導司祭がおかれます。指導司祭は、会の運営と会員の霊的指導にあたりますが、具体的には、各会員はその所属する小教区の主任司祭の指導の下におかれます。つまり、主任司祭は、特に、高齢者や弱い立場にある人々への司教的配慮から、本会会員ののために尽力します。

六、本会は会員の霊的向上に寄与するため、また会員相互の意志の疎通をはかるために、会報を発行します。

一九九三年四月十一日復活の主日(鹿屋司教認可)

### <KABAYAN SEKSIYON>

#### "PAKIPAGTAGPO KAY KRISTO"

Ang pagninilay-nilayan natin ngayon ay ang tungkol sa "Pakikipagtagpo kay Kristo".

Si Jesukristo ay pumasok sa ating kasaysayan mula noong 2000 taon ng nakaraan hanggang ngayon. Noong panahon na iyon, maraming mga tao ang natagpuan ni Jesukristo. Ang pagtagpuan na iyon para sa kanila ay isang karanasan na hindi mapapalitan. Sa pamamagitan ng pagtagpuan na iyon, nagsimulang lumakad sa bagong daan ng buhay. At iyong mga taong nagtitipon na maging alagad ni Jesus, doon sumilang ang Simbahan at ipinahayag nila ang pananampalataya sa lahat ng tao sa mundo. Dahil sa kanilang pagsaksi, maraming tao ang natagpuan si Jesus. Sa katunayan, ang pagkakaiba ng pagka-tao ni Jesus, maraming mga puso ang nagalaw at ang kanilang pundasyon ng kanilang pamumuhay ay nabago.

Ang pag-ibig ni Jesus ay naging ilaw ng buhay para sa mga taong may kapighatian, may problema, mga pusong sugatan at mga nalulungkot dahil nag-iisa sa buhay at naging lakas nila ang pag-ibig ni Jesus.

Sa panahon din ito mga Kababayan, dahil sa pagsaksi ng mga alagad ni Jesus, puwede rin natin matagpuan si Jesus. Ang pakikipagtagpo kay Jesus ay iba-iba, subalit para sa tao ay kaluwalhatian. Walang katulad na karanasan ang ang pakikipagtagpo kay Jesukristo.

Ito ang panibagong buhay na gustong ibahagi sa atin ni Jesukristo.



Fr. Dino A. Orolfo

tel/fax 09972-2-0423

keitai: 090-2085-1094

二千年前、キリストに出会った多くの人々たちにとってその出会いは掛け替えのないものとなりました。そしてそれらの人の中から教会が生まれ、信仰を伝達させてきました。それからも教会の証によって、多くの人がキリストと出会っています。キリストは傷ついている人の支えであり、光です。キリストとの出会いは人それぞれに違いますが、大切なものです。皆さんが日常の中でキリストと出会いますように祈っています。

### カバイヤン セクシオン(概要)

## 参加者募集 春の中高生巡礼

—長崎・大村の旅—

テーマ: 殉教者に学ぶ

期間: 3月29日(月)~31日(水)

対象: 中・高生(新中1年含む)

参加費: 15,000円

※離島からの参加者の旅費は主催者が負担します。

締切: 3月14日(厳守)

問合せ: 主任司祭または泉神父(鴨池教会)まで TEL099-257-8097

## 会と催し (3月)

- 1日(月) 女性信徒の会読書会・教区本部会議室・10時
- 3日(水) 教区本部会議・会議室・10時
- 14日(日) 他宗教対話の会・ザビエル教会・14時
- 16日(火) 奄美例会
- 18日(木) 教区創立記念日
- 20日(土) レデンブートル会来日五十周年・谷山教会
- 21日(日) 笠利教会百周年
- 26日(金) ザビエルコンサート・ザビエル教会・19時
- 28日(日) レジオマリエ鹿アチエス・鴨池教会・14時

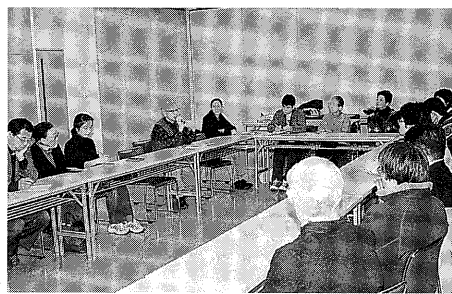
## 祈りの意向

- 【祈りの使徒会】
- 一 一般・土着の人々の土地と権利の尊重
- 布 教・宣教会とアフリカの地方教会
- 日本の教会・宣教司牧のために
- 【十字架の使徒会】 教区民の信仰の高まり

# 路上生活者とのかわりを学ぶ

## 対社会活動を決意したザビエル教会

「福音の光を社会、特に困っている人たちに届けたい」と社会に目を向けた活動を教会ぐるみで始めようとしているザビエル教会では、二月二日(月)夜、すでに活動を始めている和歌山から講師を招き、ホームレスや路上生活者とのかわりについてその取り組み方を学び、今後の活動の方向づけの一助とした。



鹿兒島市内でも増加の傾向にあるホームレスや路上生活者。教会に助けを求めに来る人たちも多し。鹿兒島市の中心地にあるザビエル教会も例外ではなく、一日の宿や食事を求める人が増えてきている。それらの人にはこれまで司祭が独自に対処してきたが、教会のあるべき姿からも小教区全体で取り組むべきと

して検討を始めている。

「勉強はよくしているが社会へのアクションが不足していた」という同教会では、教会を訪ねてくる路上生活者や近くの公園などで寝起きする人たちの力になれないか話し合い、また数人で夜の街をパトロールしてそれらの人たちの実態を調査した。そしてかわりのあり方を学ぶために和歌山から講師を招き、勉強

会を実施した。講師に招かれたのは五年前から屋形町教会の信者たちと路上生活者の支援に乗り出した太田勝神父(福音の小さい兄弟会)。午後七時半から始められた講演には信者約二十人が集ま

り、全国における路上生活者の支援状況や和歌山での取り組みなど実際のかかわりについて学習した。このような教会の動きを歓迎している主任司祭の永山幸弘神父は「教会の支援が行政へのパイプ役にな

れたらいいと思う。活動は義務化せず個人の能力に応じて自由に、班あるいはグループで活動して欲しい。中途半端なかわりにならないようしっかりと準備して慎重に動き出したい」と抱負を語った。

# 私たちは一つの樹

## キリスト教一致祈禱集会

今年のキリスト教一致祈禱集会が一月二十五日(日)午後二時から日本ナザレン教団鹿兒島キリスト教会(久保木聡牧師)で開かれた。

今年のテーマは平和。鹿兒島市内のキリスト教の兄弟たち二十五人程(内カトリックは十人)が集まり、久保木牧師の説教で平和の

意味とまたカトリック、プロテスタント、どの宗派もなくてはならない大切な存在であることを確認し、今後ますます親睦が深まるよう祈り合った。説教でテーマ「平和」について解説した久保木牧師は、キリストが伝えた平和は心を騒がさないこと。イラクとアメリカの問題は大量破壊兵器を



イラクが持っているのではとアメリカが心を騒がせたことに端を発する。キリストの平和の意味を今一度確認しようとして熱く語った。祈禱会の後は、茶話会が開かれ兄弟たちの心温まる交流があった。

# 小教区目標を短冊に

## 知名瀬小教区

知名瀬小教区では小教区目標を徹底させようと、小教区目標を短冊に書き込んで九十枚印刷、各家庭に配布した。小教区目標を心に刻み込んでくれればと期待されている。



# 「熱き思い」いまだ冷めず

## 鴨池教会カテキスタ 桃園淳一郎さん

桃園淳一郎さん、鴨池教会のカテキスタである。今年喜寿(七十七歳)を迎える。昨年のクリスマスにあつた十五人の洗礼のために受洗者の勉強をお手伝いし、そして今、鴨池教会が乗り出した信仰見直しのための



「カトリック教会の教え」学習会で先生を務める。子どもたちを一人立させ、数年前に最愛の奥さんを天国に送った桃園さんは一人暮らし。悠々自適な生活と言いつつも教会活動に邁進するパワフルな老年信者である。

受洗のための勉強会で桃園さんが訴えてきたのは、「己を知るといふこと。」「一生をかけて神と人間との関係を探り出していくのが信者の使命。そのためにはまず己を知ることが大切」と桃園さんは言う。だから「神と人との関係を探る旅に出る」という受洗の決心をした人々のお手伝いをしたいと



も語る。まさに熱き思いの持ち主である。

そのバイタリテイの支えになっているというのは、青年時代の汗とその実りの思い。レジオナリエ活動で連日、パンフレットを未洗者の家庭に配布したが、そこからは一人も教会を訪

ねては来てくれず一時は落胆した。しかしその年のクリスマス、パンフレットを配った地域ではないところから受洗者が五十五人誕生したという。このことから「神さまは信者が流した汗には違う形ではあっても、必ず報いてくださる」という確信を得たという。だから彼は続けて言う「昨年の鴨池での十五人もの洗礼は、鴨池教会が小教区ぐるみで未洗者の冠婚葬祭のために汗を流し出した、それに対する神様のご褒美だ」と。

## ザビエルコンサート

— ESPERANZA (希望) —

日時：3月26日(金) 18時30分開場 19時開演

会場：鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂

入場無料

第一部 聖フランシスコ・ザビエルによせて

第二部 四旬節によせて

ソプラノ 松本英子

パイプオルガン 米沢陽子

- ▼鴨池レジオ・マリエ 二月五日(日) 鴨池教会のレジオは千回記念の集会を開いた。
- ▼他宗教対話の会 二月十五日(日) ザビエル教会一階ホールで他宗教対話の会が開かれた。十二回目のテーマは「神道」。講師は谷山教会のムイベルガ神父が講師を務めた。
- ▼女性信徒の会が黙想会 鹿兒島カトリック女性信徒の会(平野博美会長)では、二月十七日(火)、

この時期恒例となっている黙想会をザビエル教会で開催した。講師は玉里教会主任司祭サンタマリア神父(ザベリオ宣教会)。集まった七十人の会員たちは午前と午後二回の講話で、キリストに結ばれている信者の生き方を心に刻み込み、最後のミサで聖霊の祝福を御父に願った。

**深堀明義神父**  
故里脇浅次郎枢機卿が鹿兒島教区長時代、永年鹿兒島で宣教師に就任した深堀明義神父(香焼教会・長崎教区)が、二月十日(火)午前一時四十七分、急性肺水腫のため聖フランシスコ病院で亡くなった。六十八歳だった。神父の葬儀ミサは十一日午後、浦上教会でしめやかに執り行われた。



# 今年の年間行事予定決まる

## 教区行事への理解と協力を!

一月二十六日(月)開催された司祭評議会では、今年の教区主催行事や各会、各地で開催される様々な催しについて日程調整などを行った。この日検討された行事予定は、二十九日(木)のコンベンツス(定例司祭集会)で再度調整され発表となった。教区報では、教区の皆さんが教区行事への理解と協力を深めてもらえるよう日程を紹介する。

- 三月**
- 18日(木) 教区創立記念日
  - 20日(土) レデンプツール 会来日五十周年
  - 21日(日) 笠利教会百周年
  - 28日(日) レジオマリエ鹿アチエス
  - 29日(月) 中高生の長崎巡礼・31日
- 四月**
- 8日(木) 聖香油ミサ
  - 9日(金) 主の受難
  - 10日(土) 復活徹夜祭
  - 11日(日) 復活祭
  - 20日(火) 司祭評議会
- 五月**
- 2日(日) 召命祈願日
  - 9日(日) 教区財務委員 会
  - 18日(金) コンベンツス
  - 21日(金) マリッジエンカウンター・23日
  - 23日(日) 地区財務委員 会
  - 24日(月) 三教区司祭合 同黙想会・28日
  - 30日(日) ザビエル教会 堅信式
- 六月**

- 七月**
- 6日(日) 奄美班長研修会
  - 13日(火) 司祭評議会
  - 23日(金) カトリック幼稚 園教師研修会・24日
  - 25日(日) 信仰養成委員会
- 八月**
- 2日(月) アルフォンソ祭
- 九月**
- 6日(日) 北薩カトリック 大会
  - 13日(日) 志布志堅信式
  - 20日(日) 班長研修会
  - 27日(日) 大口堅信式
  - 28日(月) 教区司祭会
  - 29日(火) コンベンツス
- 十月**
- 5日(火) フランシスコ祭
  - 18日(月) 教区司祭会
  - 19日(火) コンベンツス
  - 24日(日) カテキスタ研修 会
  - 31日(日) 山間教会献堂四 十周年
- 十一月**
- 3日(水) 教区評議会
  - 14日(日) 川内殉教祭
  - 16日(火) 司祭評議会
  - 23日(火) 典礼研修会
- 十二月**
- 6日(金) 平和旬間始ま る・15日
  - 7日(土) カトリック教師 の会黙想会・8日
  - 15日(日) ザビエル祭
  - 16日(月) 夏期集中講座・ 20日
  - 15日(水) 教区の日(カテ ドラル献堂記念日)
  - 20日(月) 教区司祭会
  - 21日(火) コンベンツス

- 十二月**
- 5日(日) 召命祈願ミサ
- 〇五年一月**
- 24日(月) 司祭評議会
  - ▼司祭大会・27日
  - 27日(木) コンベンツス
- 二月**
- 11日(金) 聖母幼稚園創立 五十周年
  - 14日(月) レデンプツール 会総会・15日
  - 25日(金) 司教区昇格記念 日
- 三月**
- 18日(金) 教区創立記念日
  - 24日(木) 聖香油ミサ
  - 25日(金) 主の受難
  - 26日(土) 復活徹夜祭
  - 27日(日) 復活祭

アチエスのお知らせ  
—レジオ・マリエ—  
日時：3月28日(日) 14時  
場所：鴨池教会  
※司教様司式で行われます。  
主催：鹿兒島コミチウム

回ネットワークミーティ ングとカトリック青年連絡協 議会の運営委員会が開かれ た。  
ネットワークミーティ ングでは「とびこえよう」 をテーマに、祈りや分かち 合いを通して青年たちが教 会や社会で感じるいろいろな 壁や障害、生き方につい て考えた。  
また、各地の青年の教 会における活動についても 交流会などを通して情報交 換もした。  
今回の参加者は北海道 から鹿兒島まで八十人ほど クミーティング 二月七・九日に東京日 野のラ・サール会館で第六

いる。青年たちの活動を青 年たち自身が主体となって 支え合う同会の活動と、こ の活動が鹿兒島教区の青年 たちにもよい刺激となるこ とを期待したい。  
以下に鹿兒島から参加 した青年の感想。  
(報告/久保直基)

分かれ合いで、いろい ろな困難な壁に直面した 時、それを飛び越える過程 がとても大切であることに 気付きました。また、祈り のなかで、神様を通してお 互いにつながっているとい う温かい感覚を覚え「恐れ るな」とイエスから言われ ているような気がしまし た。(谷山教会 辰元成也)

ネットワークミーティ ングで学んだもの、それは、 人と人とのつながりの力 は、どんな力よりも強いと いうことだ。だから、鹿兒 島の青年たちがまとまるこ とで、これまで出来なかつ たいろいろな事が出来るよ うになると思う。そして私 はその架け橋になりたい。 うまく出来るかはわからない が、自分なりに最善を尽 くしていきたい。神様に身 をゆだねる謙虚な姿勢を大 切にしていきたい。(ザビ エル教会 山下文俊)



堅信式

## 文芸

### 短歌 (思川短歌会作品)

許し合うころの花はまだつぼみ  
みとめ合うまで花いちもんめ  
(評) 心理描写がすばしく、結句は 哀しい。「みころ」に思いを残し て去る君の想いを問わず君も語 らず」も佳作。結句を「君を見 守る」に詠めば歌が重たくなる。

鹿兒島 本城 愛

亡き母の短い指の思い出は引きく  
らべした蚊帳吊草の綾  
(評) 「蚊帳吊草の綾」は愛おしい祈

りの歌である。「しとしとと降る 三月の夜の雨窓をぬらして冷た く落ちる」歌も、人生の刻を表 白している。

鹿兒島 田平新太郎

父さんも母さんも健やかだから聴 きに行こうよアンジェラスの鐘を  
(口語は呼びかける優しさがある) 山荘の静寂に聴かむ蟋蟀のマリア マリアと呼び合う声を  
(山荘は無我の館である)

鹿兒島 龍門司真人

春愁のロザリオの球折りけり  
山百合の香り仄かな聖母像

鹿兒島 龍門司真人

愛おしく真心をよぶミサのうた



### 会員募集

#### 思川短歌会・俳句会

あなたの祈りの短歌、俳句を毎月三首、三句以内 を書いて会宛にお送りください。

〒八九〇〇〇六四 鴨池新町三一五―四〇二  
田平新太郎方(☎〇九九―二五五―四二六二)  
思川短歌会 思川俳句会